

品目別レポート その他（さんま・たい）

〔さんま〕

■品目説明

さんまは北太平洋に生息し、日本では秋の味覚として代表的な魚となっている。近年のさんまの資源評価は適正な水準にある可能性が高いと判断されているが、日本の排他的経済水域を含む北太平洋におけるさんまの漁獲量の急激な増大により、北太平洋の海洋生態系の保護と漁業資源の長期的な保存および持続可能な利用の確保を目的に北太平洋漁業委員会を設立し、資源管理に取り組んでいる。

また、ロシア水域におけるさけ・ます流し網漁業禁止の影響（「さけ・ます」を参照）を受ける漁業者等が、代替漁業として従来さけ・ます操業を行っていた5月から7月に、公海での操業を行うこととしている（内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出力強化戦略」（平成28年5月）より）

日本の19年のさんま漁獲量は、前年比64.5%減の4万5,800トン。北海道、岩手県、宮城県、などが多い（農林水産省「漁業・養殖業生産統計」）。国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所において、今後（令和2年8月～12月）の道東～常磐海域におけるサンマの漁況について、「来遊量は昨年を下回る」とされている（7月31日付）。

■輸出概況

日本の19年さんま輸出額は前年比19.9%減の899万ドル、数量ベースでは同11.5%減の7,500トンとなった。主要輸出相手国別にみると1位のタイ向けが前年比4.0%増の290万ドル（シェア32.2%）となった。2位はロシア向けで前年比69.0%減の173万ドル（同19.3%）、3位が中国向けで同45.2%増の169万ドル（18.8%）だった。

▼表1：日本のさんま輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
タイ	2,004,573	1,463	2,788,493	2,027	2,900,036	2,704	4.0	33.4
ロシア	5,421,410	5,130	5,610,452	4,870	1,737,358	1,699	△ 69.0	△ 65.1
中国	969,275	627	1,164,285	483	1,691,098	1,048	45.2	117.0
ベトナム	554,968	266	934,968	676	1,487,789	1,096	59.1	62.1
米国	99,506	17	429,370	261	581,168	448	35.4	71.6
全世界	9,223,339	7,587	11,228,445	8,470	8,991,614	7,500	△ 19.9	△ 11.5

注：対象はHSコード 0303.59-010

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

■海外事情

●タイ

日本側の統計で見ると、19年のタイ向け輸出額は前年比4.0%増の290万ドル。数量ベースでは、33.4%増の2,704トンとなった。日本にとって輸出相手国としては、ここロシアを上回り1位となった。

タイの日本食レストラン増加に伴い、主食用日本産水産物の輸入も増加している。空輸で輸入された日本産水産物を使っているレストランも多い。現地日本食レストランによれば、5年ほど前と比べてもタイ人の嗜好は大きく変わったとしており、5年前は見たことがない料理は試そうとしないところがあったが、今では見たことがないものでも口にするようになった。日本に観光する機会が増えたため、日本の季節感を求めるタイ人が増えてきた。サンマなど日本での季節を知った上で注文する人もいる（「タイ日本食品消費動向調査（2017年3月）」、ジェトロ）。

バンコクの日系小売店（アッパーミドル向け）における日本産冷凍さんま（パック、2匹、275g）の場合、96.5タイバーツ（約347円）であった（ジェトロ「現地市場価格調査」、2018年4月）。

●ロシア

日本側の統計で見ると、19年のロシア向けさんま輸出額は前年比69.0%減の173万ドル。数量ベースでは同65.1%減の1,699トンとなった。

ロシアについては平成30年11月30日付けで、福島県の放射性物質等の証明書の添付が撤廃された。すべての都道府県に所在する施設から輸出される水産物について、ロシアにおいてサンプル検査が実施される。

ただし、ロシア向け水産物の輸出では施設登録が必要となっているが、ユーラシア関税同盟にて設定された関税同盟技術規則などについて、日露間の新たな合意が成立するまでは、新規登録は認められない。

モスクワの現地系小売店におけるロシア産さんま冷凍フィレ（245g）の場合、445.9ルーブル（約865円）であった（ジェトロ「現地市場価格調査」、2018年4月）。

〔たい〕

■品目説明

広義にはスズキ目タイ科の総称、狭義にはタイ科のマダイを指す。農林水産省の漁業生産統計等では、タイ類としてチダイ、キダイ、クロダイ、ヘダイを含んでいる。このタイ類としての19年の漁獲量は前年比1.2%減の2万5,000トン。長崎県(4,500トン)、福岡県(2,700トン)、島根県(1,700トン)、愛媛県(1,600トン)などが多かった。他方、マダイ養殖については、前年比2.1%増の6万2,000トンとなった。愛媛県(3万5,500トン)、熊本県(8,300トン)、高知県(6,300トン)などが多かった。

「農林水産業の輸出力強化戦略(平成28年5月)」においては、たいは中国、韓国では活魚の評価が高いものの、他国においては高級魚としての評価を受けていないため、中国、韓国向けに活魚での輸出を拡大すべきとしている。活魚や生鮮での輸出にあたっては、品質保持の観点から迅速な輸出が求められ、中国・韓国向けに必要な衛生証明書及び放射性物質検査証明書に関して、発行窓口の多角化も含め、関係省庁及び都道府県と検討・連携し、事務処理の合理化を図るとしている。また、生産面では、餌料の高騰にも安定した養殖経営・生産を確立するため、配合飼料の価格高騰に備え、経営安定対策を実施するとともに、低魚粉配合飼料の導入を推進。また、給餌量の削減等によるコスト低減の実証事業を実施している。

■輸出概況

日本のタイ類の輸出額が19年に前年比23.3%減の3,240万ドル、数量ベースで同19.3%減の4,161トンとなった。輸出相手国1位は韓国で、前年比25.9%減の2,092万ドル(シェア64.5%)。数量ベースで11.9%減の2,707トンだった。2位は米国向けで同3.8%増の444万ドル(シェア13.7%)、数量ベースで同0.3%減の323トンとなった。

▼表1：日本のたい輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
韓国	19,159,223	2,448	28,247,334	3,072	20,927,389	2,707	△ 25.9	△ 11.9
米国	3,075,492	253	4,284,724	324	4,448,093	323	3.8	△ 0.3
台湾	2,003,315	224	3,136,875	376	2,987,370	339	△ 4.8	△ 9.8
香港	346,872	34	1,039,872	97	1,744,200	186	67.7	91.8
タイ	1,499,414	365	3,420,057	746	990,726	228	△ 71.0	△ 69.4
全世界	27,800,579	3,759	42,260,928	5,153	32,408,516	4,161	△ 23.3	△ 19.3

注：対象はHSコード 0301.99-100, 0302.85, 0303.89-300

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●韓国

韓国のタイ類輸入額は、前年比 20.6%減の 3,322 万ドル、数量で見ると同 10.2%減の 3,613 トンとなった。日本からの輸入は前年比減少となっているが、17 年比で見ると 17.4%増と伸びている。高級志向では日本産は日本料理の象徴として扱われ、日本食レストランの増加に伴い、今後も堅調な需要が見込まれるほか、贈答用としても人気だ。

▼表2：韓国のたい輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	21,190,618	2,283	31,135,058	2,941	25,191,422	2,716	△ 19.1	△ 7.7
中国	7,093,983	700	10,693,181	1,082	8,038,461	896	△ 24.8	△ 17.2
台湾					60	0	-	-
全世界	28,284,601	2,983	41,828,239	4,023	33,229,943	3,613	△ 20.6	△ 10.2

注：対象はHSコード 0301.99-4090

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

●米国

米国による 19 年のタイ類輸入額は、前年比 12.3%増の 1,133 万ドル。数量ベースで同 17.8%増の 1,494 トンとなっている。輸入相手国 1 位はニュージーランドで前年比 14.7%増の 350 万ドル、数量ベースで同 13.3%増の 518 トンとなっている。金額ベースのシェアは 30.9%だった。2 位は日本で前年比 1.2%増の 315 万ドル、数量は同 0.8 減の 245 トンだった。輸入単価で見ると、ニュージーランドはトンあたり 6,762 ドル、日本は 1 万 2,857 ドルと倍の開きがある。

▼表3：米国のたい輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ニュージーランド	-	-	3,053,334	457	3,502,814	518	14.7	13.3
日本	2,051,792	185	3,111,270	247	3,150,015	245	1.2	△ 0.8
トルコ	705,315	96	892,986	150	1,593,766	273	78.5	82.0
ギリシャ	1,263,538	268	1,364,573	289	1,510,653	322	10.7	11.4
キプロス	393,974	49	604,349	76	666,532	92	10.3	21.1
全世界	5,173,134	651	10,095,895	1,268	11,333,954	1,494	12.3	17.8

注：対象はHSコード 0302.85

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。